

国際共同研究部

Division of International Cooperative Researches

研究支援推進員 岩白 円

Assistant

Madoka Iwashiro

◇目的 Aims

伝統薬物・薬用植物に関する国際的共同研究の推進を目的に、(1)タイ国との拠点大学方式による交流事業、(2)ミャンマーとの海外協力事業および(3)北京大学薬学院との共同研究拠点(International Collaboration Center for Conservation and Efficient Utilization of Medicinal Resources)事業を展開している。(4)また和漢医薬学研究推進ネットワークを構築し、情報の共有化を図る。

◇活動事業実績 Archivements

1) タイ国との拠点大学方式による交流事業実績

本事業がはじまってから8年を経過し、それぞれの共同研究の学術面の成果が挙がってきている。

本研究所が、将来的に和漢薬・伝統薬物に関する中核的研究拠点形成をさらに推進するためには、今後の研究の最前線に立ち且つ将来の和漢薬・伝統薬研究の中核を担うと期待される大学院学生に、国際感覚とコミュニケーション能力を修得させることが大変重要と考えられる。そこで、平成19年度学長裁量経費の支援を得て、「大学院学生を対象とした和漢薬・天然薬物研究に関する学術支援プログラム」を計画・実施した。研究所内大学院生から応募者を募り、3名の大学院生の本プログラムへの参加を決定した。参加大学院生には英語による研究発表とタイの大学院生・研究者との交流を実習・体験させた。

実際参加した大学院生によると、発表及び質疑応答がすべて英語であるという体験が大変貴重なものであったという意見や、タイ人大学院生の積極性に刺激を受けて、研究に対する情熱がさらに高まったという意見もあった。また、タイで実際に行われている研究を、自分の研究と結びつけ、発展させたいという希望を持った学生もいた。一方では、タイの研究設備に対して、本研究所が大変恵まれていると実感したようである。このように、海外での体験を通して、学生自身が自らの研究をより客観的に捉えることができた事は、本プログラムによる大きな成果といえるのではないだろうか。

今後もこのようなプログラムを継続的に実施できれば、未来の和漢薬・伝統医薬研究発展を担う国際的人材育成の大きな力となることは、間違いない。(文責：岩白 円)

2) ミャンマーとの海外協力事業

独立行政法人国際協力機構(JICA)の支援を受けて、ミャンマー連邦国の伝統医療プロジェクトが本格的に始動している。

今年(2007年)は、3人の専門家[済木育夫教授(派遣期間：平成19年7月14日～7月19日)]；

門脇 真教授と手塚康弘准教授（派遣期間：平成 19 年 7 月 14 日～7 月 26 日）が参加し、派遣された。ヤンゴンとマンダレーで、それぞれセミナー・ワークショップを 2 日間開催した。演者は、ミャンマー側から、U Wa Tun 氏による「Characteristic of Myanmar TM」、Dr. Sein Win 氏「Significant Achievement of Myanmar TM in recent years」、Dr. Theim Kyaw 氏による「Science Based TM」と題する講演があった。また、日本側から済木専門家による富山大学和漢医薬学総合研究所の紹介、門脇専門家による血圧測定及び尿試験に関する説明と実習、ならびに手塚専門家による 2007 年春に行なったアンケート調査結果の報告を行なった。また、グループによる糖尿病、高血圧、婦人病、Stroke についてグループ討論、発表、質疑応答が行われた。さらに、今回のワークショップに対する評価について、評価用紙の記入や総合討論も行なった。

今後、数人の専門家が派遣され、伝統医療従事者に向けたハンドブックの作成のための追加調査、データ集計と解析など調査報告を行なうと共に研修ニーズ分析や研修講師トレーニングを行なう予定である。（文責：門田 重利）

3) 北京大学薬学院との共同研究拠点事業

2005 年 2 月 25 日、富山医科薬科大学と北京大学医学部との間に「薬用資源研究における国際協力拠点設置に関する協定」を結び、富山医科薬科大学和漢薬研究所と北京大学医学部薬学院の施設内にそれぞれ研究拠点を開設した。この協定により学術交流や共同研究及び、2003 年に採択された 21 世紀 COE プログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」の更なる進展を図る。本年の主な活動は次のとおり。

1) ジョイントシンポジウムの開催

2007 年 6 月 25 日：北京大学において、富山大学の「21 世紀 COE プログラム」と北京大学の「創造研究チームプロジェクト」によるジョイントシンポジウム「Evidence-based Approach to Traditional Medicine and Modern Medicine（伝統医学と近代医学への科学的根拠に基づいたアプローチ）」を開催した。双方の研究拠点の主任を務める和漢医薬学総合研究所・小松かつ子教授と北京大学薬学院・蔡少青教授が運営にあたった。富山大学の西頭徳三学長、北京大学の方偉崗医学部副主任の挨拶に始まり、両プロジェクトリーダーの挨拶の後、講演 12 題、ポスター 21 題が発表された。参加者は 130 名余を数え、活発な質疑応答がなされた。このシンポジウムは、北京大学医学部と富山大学和漢医薬学総合研究所の間に締結した「薬用資源研究における国際協力拠点設置に関する協定」に基づく共同研究の成果、並びに富山大学 21 世紀 COE プログラムの研究成果、及び北京大学創造研究チームの研究成果をお互いに発表し、さらなる共同研究に結びつけることを目的としたものである。

2) 共同学術調査

- ・ 7 月 18 日～8 月 11 日：小松かつ子教授、魏勝利 COE 研究員、及び北京大学薬学院白焱晶講師が、中国甘肅省、青海省及び四川省において、大黃の資源植物の調査を実施した。
- ・ 7 月 21 日～8 月 8 日：北京大学医学部薬学院の樊蘭蘭及び倪斯然（大学院生）が、中国安徽省、貴州省及び広西壮族自治区において「百部及び *Stemona* 属植物の遺伝子解析と含有成分に関する共同研究」に資するための材料収集を行った。

3) 調印

10 月 19 日：和漢医薬学総合研究所の済木育夫所長と北京大学薬学院の劉俊義院長が、「富山大学和漢医薬学総合研究所・北京大学薬学院間の漢方医薬共同研究に関する協定」に調印した。

（文責：宇井 喜久枝）

4) 和漢医薬学研究推進ネットワークを構築・共有化

1) 和漢薬の基礎・臨床研究に関する情報・知識を集積、交換、発信するとともに国内及び国際的共有化を図り、併せて国内・国際共同研究を推進する中核的拠点を形成することを目的としたネットワークを平成 17 年度に立ちあげた。本年も、登録会員の方へのメールによる情報（和漢薬関連のセミナーやシンポジウムの開催予定など）配信サービスを行った。

- 2) 第 18 号配信・・・5 月 28 日 (開催情報 1 件、リンク先掲載 1 件)
第 19 号配信・・・6 月 15 日 (開催情報 1 件、リンク先掲載 1 件)
第 20 号配信・・・7 月 25 日 (開催情報 1 件、リンク先掲載 1 件)
第 21 号配信・・・8 月 7 日 (情報配信 1 件)
第 22 号配信・・・7 月 7 日 (開催情報 1 件、情報配信 1 件)
第 23 号配信・・・9 月 10 日 (開催情報 2 件、情報配信 1 件)
第 24 号配信・・・10 月 1 日 (開催情報 3 件、情報配信 1 件)
第 25 号配信・・・10 月 5 日 (開催情報 4 件、情報配信 1 件)
第 26 号配信・・・11 月 13 日 (開催情報 3 件)
第 27 号配信・・・11 月 22 日 (開催情報 4 件)

(文責:岩白 円)